

葉山町子育て支援センター ぽけっと 〒240-0111 神奈川県三浦郡葉山町一色1493-1 TEL: 046-876-4152

秋はほんとうに来るのでしょうか？心配になるほどの暑さでしたが、朝晩の空気には、すっかり秋の気配。この微妙な季節の変化を感じる頃がどことなく切なくて好きなのですが、みなさんはどの季節が好きですか？季節ごとに蘇る思い出が、どなたにもあるのではないのでしょうか？人のこころは『思い出』で育っていくものですね。

野山を駆けまわって思いきり遊んだ、友だちと戯れて遊びケンカもいっぱいした、いたづらをしていっぱい怒られた、思い切り部活に燃えた、恋もした、失恋もたくさんした、とにかく勉強をがんばった！ Etc.etc.…そのいろいろな経験の中から、危険回避のすべてであったり、困難を乗り越える方法であったり、人との関わり方、感じ方、考え方など、たくさんのことを体得して、血となり骨となり、心は豊かになり、生きる力になるのだと…。

しかしもって生まれた素地は、その人だけのもの。たとえ同じように育てられ、同じ経験をしたとしても、同じにはならない。それが、その人らしさです。子どもたちとなると、それをそのまま活かしていくことが、一番その子を輝かせることになるのではないかと思います。そして、そのために最初に必要なことは、やはりその子のありのままを受け止めること。「泣いたら抱っこしてくれ」「呼んだら来てくれた」「困ったら助けてくれた」「求めたらいつでも応えてくれた」という積み重ねと、その子がどんな状態でも丸ごと受け止めることで、「愛されている」「自分は大切な存在」と実感し、自己肯定感を身につけることにつながります。そこがしっかりとできていけば、安心して人と親愛関係を結ぶことができ、生きる喜びや意欲が持てます。そして結果的に、その子の持っている可能性を最大限広げることになるのです。

大人は、必要ときに手を差し伸べ、軌道修正し、支えてあげればいい。でも、実はそれがけっこう難しいんですよね。ついつい大人目線であれこれ言い、軌道修正どころかぐいっとひっぱって大人の都合や希望に合わせようとしてしまう…。素材を活かすどころか、ごてごてと飾ろうとしたり欲しがっていかないものまで与えようとして。大人が子どもを「形作る」ものだと勘違いしてしまうのです。子どもたちは、もともと持っている自分の力を一生懸命発揮しようとしているのに…。静かに黙って子どもの姿を見つめていると、なにをしてあげるべきかが見えてきて、やるべきことは意外に少ないということに気づきます。

ときには立ち止まって、肩の力を抜いて、子どものこと、子育てのことを見つめ直してみるのもいいですね。

センター長 山浦彩子(やまうら あやこ)

10月の予定

◆ いよいよこといよいよ

「ふれあい遊び」毎日 11:00-11:30

<第2・3・4・5水曜> えいごで遊ぼう

(松本ようこ先生/加藤りみ先生)

<第1第3木曜> おやこダンス (近ゆきこ先生)

◆ 「0歳児つどいの広場」毎週木曜 10:00-11:00



10月の開館時間

◆ 開館時間 9:00-17:00

※広場の開放時間は15:00迄、子育て相談・一時預かり・ファミサポ・2F多目的室のご利用は17:00迄です

◆ 休館日 日曜・月曜・祝日

※お盆も変わりなく開館しています！

◆ 職員会議・研修 10/19(土)

※広場・一時預かりのご利用は13:00迄になります



いよいよこといよいよ
広場の遊びから



はんぶん大人…？

今年の初めに娘の通う小学校で二分の一成人式をしていただきました。その時学校の先生から「子どもはひとつ、ふたつ、みつ…“つ”の付く年までたくさん甘やかして愛情をあげてください」と言われました。「でも過干渉には気をつけて」とも言われました。

早生まれの娘は当時9才(このつ)、まだ“つ”の付く年。あっという間に大きくなってどんどん手が離れていく娘に、私はまだたくさん守ってあげてイイ年なんだと嬉しくなっていました。すでに10才になった娘ですが、私から見たら今だに家では大きい赤ちゃんみたいに甘えん坊。それでも外では一丁前にお姉さんの顔を見せたりして…

一人っ子の娘に私はついつい目が行き届きすぎてしまうところがあるかもしれないけれど、娘の成長を隣りじゃなく前でもなく一歩後ろでそっと見守りながら、私も娘の成長と一緒にお母さんとして成長していかなくてはと思う今日この頃です。



◆ 小林 恵美 (こばやし えみ=どんちゃん先生) 事務 担当 ◆



一時預かり
ぷちのお部屋から



子どもと「遊ぶ」ということ

子どもと遊ぶのって難しい。例えば、幼稚園の帰り道、公園でお友だちと遊ぶ。確かに娘はお友だちと遊んではいけるけど、これは「子どもと遊んでいる」んじゃないって「子どもを遊ばせている」だ。

先日、ダイエットのダンスDVDで私が踊っていると娘が乱入。シーンが進んでも踊り続ける娘に対して、私は早々に足がもつれてリタイア。そのコケっぷりを見た娘が大爆笑。たぶんこうしたことを遊ぶと思う。互いのベクトルが同じ方向に向かい、自分も熱中、子どもも熱中。でも往々にして面倒に思えてしまう。お家にいるときは、もちろん遊んでばかりいられるわけもなく、しなきゃならないことだってある。そんなときは「イラッ」としてしまふ。それじゃいけないと思っけていても。

たぶん「遊ぶ」と「遊ばせる」のやりくりが大切なのだろう。遊ぶときは徹底して熱中する。でもそれが一日中続くわけではないからフッと息を吐いて、お友だちだったり、一人遊びできる道具で遊ばせる。前者があればきっと子どもは後者も受け入れてくれる。前者がなくて後者ばかりだと大いにグスられる。

そうはわかっていても、そのやりくりはとても難しく、まだまだ上手に出来ないている。



◆ 柴崎 ちとせ (しばさき ちとせ=ちい先生) ぷち 担当 ◆

ぽけっと



夏休み special ぽけっと ♪いいこといいこと♪

『クラフトから園芸まで…いろ～んな企画が盛りだくさん！』



ぽけっと園芸ボランティア(小学生)～がんばっています！

今年度のぽけっと園芸クラブは子どもだけの参加の試行として風の子学童クラブのみなさんに『園芸ボランティア』として参加して頂いています。小学校1年生～6年生までの総勢18名で、平日の下校後夕方限られた時間帯での活動ではありますが、畑の草取りや花壇の土づくり～お花の種まき、グリーンカーテンづくり等園芸活動のサポートをしてくれています。



自然物クラフトのワークショップ開催 8/23

園芸ボランティアの皆さんと『石ころ虫と貝殻裁つくり』を楽しみました。小さな丸い石ころに色々な模様を描いて、ワイヤーで脚をつけて…世界でたったひとつしかないオリジナルの虫が完成。サザエ等の貝殻をミニ鉢にして多肉植物を植えて…涼しげなガラス皿に飾り砂やグリーン、いろんな虫たちの世界を演出するコーディネートにもチャレンジしてもらいました！



『じゃがじゃがのおやつ作り』8/2

ぽけっと畑で収穫したじゃがいも(キタアカリ)で『いももち』を親子で作りました。おいもの生地をこねて、丸めて…ホットプレートで焼いて、甘いみたらしあんをからめて…新じゃがのおやつはもちもちで甘くとっても美味しい！とニコニコ笑顔がたくさん見られました。

『ひまわりの貼り絵～おじぎひまわりづくり』8/15-27-29

5月にひろばのみんなで種をまいて育てたひまわりの花が、ぽけっとのお庭で満開に。ひまわりにまつわる絵本の読み聞かせ～ミニ額風のひまわりの貼り絵やストーリーを壁に見立てた、ゆらゆら揺れておじぎをするひまわりを作りました。



『ペットボトルの風鈴づくり』8/7～23

いいこと、楽しいことやひろばの遊びの時間に、ペットボトルを利用した風鈴づくりを楽しみました。透明のペットボトルにカラーペンで模様を描いたり、キラキラテープをはったりetc.いろいろなアイデア満載の作品が仕上がりました！風に揺れるとキラキラひらひら…とっても涼しげに目に映る風鈴が、連日の夏の暑さを和らげてくれました。



『やさしいスタンプあそび』8/3-6

レンコン、オクラ、チンゲンサイ…さまざまな野菜ではがきにスタンプあそびを行いました！色とりどりの手づくり書中お見舞いが完成！はがきは葉山郵便局とマロウさんコラボ企画からご寄付頂いたものです。



子のこころ 親のこころ ～子育てをこころの発達から考える～

娘の涙…好きだからこそ、せつない

高2の娘は6歳から10年間続けたバレエを7月で休止。今年の定期発表会で『眠れる森の美女』のオーロラ姫という大役を踊らせていただいたのを機に、スタジオへ足を向けなくなりました。踊ることが楽しくて毎日のように練習していたバレエ。小学校高学年になるとただ踊るだけでは満足できなくなり、自分なりに技術や表現方法を研究するようになって、ずいぶん上達しました。長い間生活の中でバレエが大きな位置を占めていたのですが、月日が経つうちにいつのまにか人生の大きな岐路に立っていたのですね。将来バレリーナとしてやっていくことは難しいと悟り、最近新しい目標ができたようです。その目標のためにはいままでとおり踊る時間はない、かといって週1回くらい気分転換に踊る気もちにもなれない。娘は悩んだ末、今回の舞台を集大成としてこころのケジメをつけたのでしょう。

人を笑わせることが好きで三枚目の娘は、いつもスタジオの雰囲気なごませるムードメーカー。「やる気マンマン」の熱い気もちをおもてに出すことは苦手です。緊張感だらけの発表会のリハーサル中ですらおどけてみせるので、ひんしゅくをかうのではないかと見ていてハラハラ…。そんな彼女ですが、バレエに対する秘めた気もちは一層真摯で努力家。ずっと見守ってきた母は知っています。家では、思うように上達しない自分へのいら立ちを見せたり、人知れず涙を流したい娘がくやし涙を流すたびに、「一所懸命になれることが見つかったすばらしさ」「結果にとらわれないで努力する尊さ」を確認して彼女を勇気づけました。せつない想いがたくさんありましたが、涙を乗り越えるたびに自信をつけて成長していく娘を、とても頼もしく愛おしく感じました。「好きだからこそ、せつない」むしろ夢中になることがあってうらやましいくらい。娘のバレエとの葛藤は母娘の絆をいっそう固くしてくれました。せつない想いも振り返ればなつかしい。「娘」の雰囲気からはほど遠かった娘が、本番の舞台では見違えるようなオーロラ姫を披露してくれました。涙はなく晴れやかな笑顔。みなさんからは「女性になったね！」と妙なほめ言葉をいただいて…「ほんとうによくやり遂げたね」こころからそう思い、母はうれしくて涙が溢れました。親バカながら、ずっと彼女の『ファン第1号』です。



Q. 何に対してもやる気がない子どもにどう働きかけたらやる気になるでしょうか？

A. **まずは嫌にならないことが基本**
↓
好きなこと、得意なことから始めましょう！
↓
失敗や困難にぶつかったときこそ勇気づける
→結果を気にしないでやろうとした過程を認める
→がんばった経験は無駄ではなく自信になる
↓
自分は何が好きで何が得意だろう…など自身を客観的にみる手助けをしてあげることも大事
↓
やるかどうかは自分で決める方が自信につながります
↓
ときには勇気ある撤退を(より自分に合った道を選ぶ)